



落石地区マリンビジョンニュース



落石地区マリンビジョン協議会では、様々な人たちと連携してビジョンを実現するために取り組んでいます。その取り組み内容を随時お知らせするため、「落石地区マリンビジョンニュース」として定期的に発行しています。

ご感想、ご意見等お寄せ下さい。

発行・編集：落石地区マリンビジョン協議会事務局

「北海道開発局長賞」受賞!!

北海道マリンビジョン21コンテスト

平成23年7月21日に自治体や道内の漁協で構成される北海道マリンビジョン21促進期成会が主催する第3回北海道マリンビジョン21コンテストで、落石地区マリンビジョン協議会が総合部門で「北海道開発局長賞」に選ばれました。表彰後に落石地区マリンビジョン協議会の取り組み事例が報告され、落石漁協の長山専務から落石地区の取り組みや成果の説明がされました。

今回の受賞は、漁船に乗船してバードウォッチングが楽しめる落石ネイチャークルーズ、浜松フットパスに続き、昨年より準備を進め今年6月11日にオープンしましたおちいし岬フットパスなど率先して地域振興を進めていることと、津波来襲時の漁船の避難ルール作りに取り組んでおり全国的に注目を集めていることなどが高く評価されました。この受賞によりこれまで行ってきた事が認められる結果となり、地域マリンビジョンに取り組んでいる地域住民は更に地域振興に対して意識が高まることでしょう。

表彰状を受け取る長山専務



マリンポートフェスティバル「第5回おちいし・味まつり」



平成23年6月5日(日)に落石漁港中央埠頭にてマリンポートフェスティバル「第5回おちいし・味まつり」が開催されました。当日は、晴天に恵まれ気温も高く、約3,500人の人が会場に訪れました。

物販コーナーでは、販売開始の30分前から各物販テント前に人が並び、浜値で販売される落石の海産物を購入しようと大勢の人で賑わっており、名物のタコ飯弁当はすぐに売り切れるほど大人気でした。

炭火焼きコーナーでは、物販テントで購入した魚貝類を焼くことができ、大勢の人が新鮮な魚貝類をその場で焼いて食べている姿がありました。

イベントでは、初の試みとしてホッキ貝早剥き競争が行われ、1分間でどれだけホッキの殻を剥けるか競い、地元の人と観光客を含めて24人が挑戦しました。悪戦苦闘しながら剥く挑戦者もあり、地元の人でも殻を剥くのが難しく苦労していました。

また、落石ネイチャークルーズ協議会によるユルリ・モユルリ島周遊航行が行われ、乗船したお客さんからは「(絶滅危惧種である)エトピリカを見ることができました」と喜んでもらうこともできました。

最後に餅まき抽選会が盛大に行われ、抽選券が入っている餅を拾い、景品を手にして喜ぶ姿がみられるなど大盛況のうちに終わることができました。

尚、おちいし・味まつりの会場では、東日本大震災の義援金の募金箱を設置し、多くの方々から協力を頂きました。会場で募った義援金は、販売売上の一部と併せて根室市の被災地対策資金として6月14日に中野組合長より長谷川俊輔市長に手渡されました。

餅まき抽選会



ユルリ・モユルリ島周遊航行



「おちいし岬フットパス」オープン記念大会

平成 23 年 6 月 11 日(土)に平成 22 年より 1 年間をかけてコース整備をしてきた「おちいし岬フットパス」のオープン記念大会が開催されました。

当日は、根室市内をはじめ釧路市、別海町、中標津町から約 110 人の方が大会に参加しました。

コースは落石漁協を出発し、落石岬、落石灯台、旧落石無線電信局を散策する全長約 7.4km の散策コースとなっており、当日は、霧が濃い状況でしたが、参加者は落石特有の断崖絶壁の景色や、サカイツツジなど自然を満喫している様子でした。

「おちいし岬フットパス」のゴール地点である漁協で、落石漁協女性部による炊き出しで、落石の海産物を使用したカニ飯や鉄砲汁、タコザンギなどが提供され、参加者は落石の海産物を使用した美味しい料理を食べて大満足の様子でした。

「おちいし岬フットパス」がオープンしたことによって、今後は多くの方が落石を訪れ、根室市全体の観光客の増大に貢献できればと思っています。

落石の自然を満喫！



落石漁協女性部による炊き出し



津波災害に強い地域づくり

津波災害に強い地域づくりの実現を目指した取り組みで、群馬大学の片田教授により東北地方太平洋沖地震を踏まえた落石地区の対応状況に関する説明会が 7 月 25 日に落石漁協で開催されました。

平成 19 年から片田教授と共に漁船を避難させる際のルールづくりに取り組んでおり、今回の 3 月 11 日に発生しました津波では、ルールに基づいて漁船を避難した結果、漁港内に係留していたほとんどの漁船は、ルールで推奨する水深 50m 以深より沖の安全な海域へ避難していたことが、震災後に組合員を対象としたアンケート調査によってわかりました。これも津波の対応に対して取り組んできたことが高い冲出し率につながったと思います。しかし、今回の津波では漁船の避難が完了したのが津波到達のわずか 15 分前であり、今後道東沖で 500 年周期で来るとされている巨大地震の時には、約 20 分で津波が到達すると予測されており迅速な対応が必要なのと、沖合に避難した漁船への情報伝達方法などの課題などがありました。説明会の中では、津波発生時に漁船を沖に出すか出さないか判断を示す信号機の設置、数日分の食料と飲み物を漁船に備えるなどの提案もなされました。

後半には、岩手県釜石市鵜住居町の被災と避難の状況の説明がなされ、「ハザードマップを過信せず、自分の身は自分で守る」、「津波が来たら可能な限り高台に避難する」などの対策で小・中学生が津波から

逃れた状況のビデオが映し出され、説明会に来ていた出席者らはこのビデオを見た事によって更に津波に対する防災意識が高まったことでしょう。今後も対策を進め、落石地区の取り組みがモデルケースとして全国に広まればと思います。



編集・発行・お問い合わせ先

編集・発行 落石地区マリンビジョン協議会事務局

お問い合わせ 事務局 担当:根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話:0153-23-6111 FAX:0153-24-8692

